

国際相互認証申請用紙の
Certification Level (Standard or Advanced) と Scope(Analyst types)の選定
及び NAFEMS Technical Areas の修得の記入方法

国際相互認証申請用紙（様式 1）の Certification Level (Standard or Advanced) and Scope (Analyst types)では、選択する Scope (Analyst type, 専門解析分野)毎に Certification Level (Standard または Advanced) を決める必要がある。以下の手順に従い、Scope (Analyst type)と Certification Level を決定し、国際相互認証申請用紙（様式 1）に記入する。同時に、“NAFEMS Technical Areas” の修得の自己申告書（様式 2）を記入すること。

A. 固体力学分野の上級アナリストが申請する場合

- (1) 最初に FEA (Finite Element Analysis) を選択する。FEA は、Competency Tracker (説明資料 3 の Excel 帳票の力量記述シート) の中で有限要素法のコアモジュールになっている。Competency Tracker の FEA のカラムは FEA を選択する申請者が修得すべき力量記述 (Competency Statement) の候補を示している。
- (2) 次に、説明資料 4 の”各 Area の関係”を見ると、左端の列の FEA の行は、FEA が○、MESM が All、MAS が Appropriate、BMPS が All になっている。
ここで○と All が意味するところは、FEA を選択する申請者が、自分自身が CAE の専門家として関わる産業、製品、レベル (Standard または Advanced) に相応しい FEA、MESM、BMPS の全ての個々の力量記述を修得する必要があることを示している。一方、Appropriate となっている MAS については、自分自身が CAE の専門家として関わる産業、製品、レベル (Standard または Advanced) に相応しい力量記述の中から適切なものを修得する必要があることを示している。なお、Advanced を選択する場合、Advanced と Standard の両方を修得する必要があるが、Standard を選択する場合、Standard のみを修得すれば良い。
FEA を申請すると自動的に MESM は申請可能。BMPS も申請できる可能性がある (職務経歴書で示す実務経験の裏づけは必要)。
- (3) さらに、他の Scope (Analyst Type)、例えば、NGEC を申請する場合には、FEA、MESM、BMPS が All で NGEC が○なので、NGEC だけは、自分自身の関わる産業、製品、レベル (Standard または Advanced) に相応しい、全ての力量記述を修得する必要がある。
- (4) 同様にして、自分が申請すべき Scope(Analyst type)と Certification Level を選択し国際相互認証申請用紙（様式 1）に記入する。

ただし、申請する分野は、上級アナリスト申請で提出する職務経歴書で記述した業務内容に相応しい分野でなければならない。上級アナリスト申請後に修得した専門分野を申請する場合には、業務経験を証明するエビデンスとして、既に公開された論文、技術資料などを提出すること。

B. 熱流体力学分野の上級アナリストが申請する場合

- (1) 最初に CFD (Computational Fluid Dynamics) を選択する。CFD は、Competency Tracker (説明資料 3 の Excel 帳票の力量記述シート) の中で数値流体力学のコアモジュールになっている。Competency Tracker の CFD のカラムは CFD を選択する申請者が修得すべき力量記述 (Competency Statement) の候補を示している。
- (2) 次に、説明資料 4 の”各 Area の関係”を見ると、左端の列の CFD の行は、CFD が○、FHFMT が All になっている。ここで○と All が意味するところは、CFD を選択する申請者が、自分自身が CAE の専門家として関わる産業、製品、レベル (Standard または Advanced) に相応しい CFD、FHFMT の全ての個々の力量記述を修得する必要があることを示している。なお、Advanced を選択する場合、Advanced と Standard の両方を修得する必要があるが、Standard を選択する場合、Standard のみを修得すれば良い。CFD を申請すると自動的に FHFMT が申請できる。

C. 振動分野の上級アナリストが申請する場合

- (1) 最初に FEA (Finite Element Analysis) を選択する。FEA は、Competency Tracker (説明資料 3 の Excel 帳票の力量記述シート) の中で有限要素法のコアモジュールになっている。Competency Tracker の FEA のカラムは FEA を選択する申請者が修得すべき力量記述 (Competency Statement) の候補を示している。
- (2) 次に、説明資料 4 の”各 Area の関係”を見ると、左端の列の FEA の行は、FEA が○、MESM が All、MAS が Appropriate、BMPS が All になっている。ここで○と All が意味するところは、FEA を選択する申請者が、自分自身が CAE の専門家として関わる産業、製品、レベル (Standard または Advanced) に相応しい FEA、MESM、BMPS の全ての個々の力量記述を修得する必要があることを示している。一方、Appropriate となっている MAS については、自分自身が CAE の専門家として関わる産業、製品、レベル (Standard または Advanced) に相応しい力量記述の中から適切なものを修得する必要があることを示している。なお、Advanced を選択する場合、

Advanced と Standard の両方を修得する必要があるが、Standard を選択する場合、Standard のみを修得すれば良い。

FEA を申請すると自動的に MESM は申請可能。BMPS も申請できる可能性がある（職務経歴書で示す実務経験の裏づけは必要）。

(3) さらに、他の Scope (Analyst Type)、例えば、DAV を申請する場合には、FEA, MESM, MAS, BMPS が All で DAV が○なので、MAS, DAV は、自分自身の関わる産業、製品、レベル (Standard または Advanced) に相応しい、全ての力量記述を修得する必要がある。

(4) 同様にして、自分が申請すべき Scope(Analyst type)と Certification Level を選択し国際相互認証申請用紙（様式 1）に記入する。

ただし、申請する分野は、上級アナリスト申請で提出する職務経歴書で記述した業務内容に相応しい分野でなければならない。上級アナリスト申請後に修得した専門分野を申請する場合には、業務経験を証明するエビデンスとして、既に公開された論文、技術資料などを提出すること。